

Title	環境ビジネス企業の競争戦略 - 株式会社信濃公害研究所の事例研究 -
Sub Title	
Author	大島明美(Ooshima, Akemi) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1669号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1669

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	小野 研究会	学籍番号	80028191	氏名	大島 明美
(論文題名)					
環境ビジネス企業の競争戦略 —株式会社信濃公害研究所の事例研究—					
(内容の要旨)					
<p>昨今、自然環境への関心が高まるに連れて、環境関連のビジネスは成長市場と見られている。しかしながら、私の亡父が創業した信濃グループは、この環境ビジネスの中心に位置する環境分析を事業領域としながら、近年、業績の低迷に悩んでいる。その最大の原因は、市場が成長する一方で新規参入を含む供給の拡大も急で、市場競争が年々激化している点にある。</p> <p>本修士論文研究に当たり、私は、将来経営陣の一員として貢献したいと考えている同グループ(特に、その中核企業である株式会社信濃公害研究所)を題材として、市場成長と競争激化が同時に進行する産業で、経営資源の蓄積に乏しい中小企業がどのような成長戦略を採用していくべきかという観点から事例研究を行った。</p> <p>本研究では、まず、財務諸表を中心とする社内資料を調査分析し、同社の経営会議を傍聴するとともに、現経営陣や各部門の実務担当者に対する一連のインタビュー調査を行った。その結果、業績停滞の背景には、前記の市場競争激化という基本的な環境条件に加えて、内部的にも改善・改革していくべきいろいろな問題・課題があることが明らかになった。</p> <p>次に、本論文では、12の市場競争要因をベースとする小野桂之介教授と根来龍之教授の競争戦略論をフレームワークとして採用し、限られた経営資源の下で、上記の問題・課題を解決しながら出来るだけ有効な市場競争力を発揮する競争戦略の在り方を検討した。</p> <p>その結果、信濃公害研究所が限られた経営資源を有効に活用して競争力を発揮し、市場の成長性を自社の成長につなげていくためには、・納期遅延等からくる顧客信頼の減退、・割高な原価からくる価格競争力の欠如という2つの基本問題を改善するとともに、「製品ラインアップと個別製品力(環境分析サービスの質)」の面で、他社をしのぐ差別化を実現するよう努力すべきであることが分かり、そのための強化アクションプラン(短期および長期)を提案している。</p>					